vinetur

オクシタニーのワイン協同組合、収穫量が約1,300万ヘクトリットルに回復も値下げを拒否

タンクが満たされたのは供給過剰ではなく正常化の表れだと協同組合は主張。フランスのワイン生産量の3分の1超を占める地域で値下げに反発

2026年11月12日（木）



オクシタニーのワイン協同組合は、2026年の収穫量が推定で約1,300万ヘクトリットルに回復したことを受け、ブドウやバルクワインの価格を引き下げようとする動きに反発している。生産量がより通常の水準に戻ったからといって、供給過剰を意味するわけではないと主張する。

11月10日火曜日に発表した声明で、Vignerons Coopérateurs d’Occitanieは、収穫量はラングドッ

ク・ルーションで約1,100万ヘクトリットル、旧ミディ＝ピレネー地域で200万ヘクトリットルに達する見通しだと述べた。同組合によれば、この水準は3年続いた極端な不作の後に続くものであり、正常化と捉えるべきで、買い手が価格をさらに引き下げる理由にはならない。

ラングドック・ルーションについての協同組合の推計は、フランス農業省の統計局Agresteが11月6日に公表した数値とほぼ一致する。Agresteは、11月1日時点の同地域の生産量を1,106万8,000ヘクトリットルとし、前年から25%増加したと発表した。フランス全体のワイン生産量は3,665万9,000ヘクトリットルと推計され、前年比3%増となったが、2021～2025年の平均をなお10%下回る。

これらの数値は、2026年の収穫におけるフランス南部の比重の大きさを示している。Agresteのデータと、旧ミディ＝ピレネー地域に関する協同組合の推計を基にすると、オクシタニーはフランスのワイン生産量の推定値の3分の1をわずかに上回る。このため同地域の価格方針は、地元の生産者にとどまらず重要な意味を持つ。特に、同地域のワインの多くがバルク、または保護地理的表示（IGP）付きで販売されているからだ。供給量の多いこの地域で値下げへの抵抗が続けば、業者、瓶詰め事業者、その他の飲料関連企業の仕入れ条件に影響し、サプライチェーン全体の利益率にも波及する可能性がある。

Vignerons Coopérateurs d’Occitanieの会長Fabien Castelbouは声明で、生産者は複数年にわたる極端な不作を経て、ようやく通常に近い生産水準に戻りつつあると述べた。それを値下げの「口実」にしてはならないとし、ワイン業界にはさらなる圧力を吸収する余地がほとんど残されていないと付け加えた。

協同組合によると、生産者はエネルギー、包装資材、農業資材、人件費、資金調達、環境・規制要件への対応にかかる高コストに、今なお直面している。また、ブドウ樹の伐採やブドウ畑の再編を通じて、同地域ではすでに生産能力の一部を削減したという。今年タンクが満たされたのは構造的な過剰生産の表れだ、という見方に反論する狙いがある。

同地域の回復は、フランス全体の収穫状況に見られる地域差の一端でもある。Agresteが11月1日時点でまとめた推計では、主要ワイン産地のうちラングドック・ルーションの増加率が最も高かった一方、シャンパーニュは前年から38%減少した。南西部は15%、ボルドーは10%、南東部は7%増加するなど、他の産地でも生産量が伸びた。南部の増加が北部の生産減を補った。

フランス全体では、ワインの種類別構成も市場に影響する。Agresteは、国内のIGPワインの生産量を1,201万ヘクトリットルと推計し、前年比18%増とした一方、原産地呼称ワインは4%減の1,504万2,000ヘクトリットルだった。この傾向は、IGPワインや品種表示ワインの比重が大きく、店頭に並ぶ前にバルクで流通することも多いオクシタニーにとって重要だ。

協同組合は、2026年の栽培シーズンについて、開始が早く、乾燥し、収穫期間が長引いたと説明した。2025～2026年の冬の降水量は平年並みに近く、過去のストレスで減少した土壌やブドウ樹の蓄えの一部を回復させる助けになったという。その後、春から夏にかけて再び干ばつと高温に見舞われた。同組合によれば、ブドウは健全性に優れ、成熟度のバランスも取れた状態で収穫され、品質の高いヴィンテージと評価された。ただし、市場全体の評価は、その後の試飲や販売状況によって定まる。

争点となっているのは、新たな商戦が始まるなかで生産者に支払われる価格であり、消費者向けの

小売価格が直ちに下がるかどうかではない。現在の数値から、店頭のボトル価格が必ず下がるとは言えない。小売価格は、契約や在庫、他地域の収穫状況に加え、生産者、協同組合、業者、小売業者間の交渉によって決まる。

収穫量が増えた一方で、業界への圧力は依然として明らかだ。Vinaboxによると、ルーションでは9月時点で、前年に比べて協同組合系ワイナリーが4カ所減少した。生産量が回復するなかでも、業界の一部がなお財務上の厳しい状況に直面していることを示している。